

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 7年 3月31日
学)かえで学園 かえで幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・神さまに祈り、生かされていることを感謝し、人々を思いやる心を養う
- ・さまざまな事柄に感動する心、探求する心、創造的に関わろうとする心を養う
- ・ひとりの人間として、受け入れられていることを喜び、感謝をもって、人と自分を愛する心を養う

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

年主題「さあ、漕ぎ出そう 奏でよう」

子ども達一人一人に寄り添い、生活や発達に即した援助を考える

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教員の共通理解を図り、保育の質を高める	A	・キリスト教保育の原点、共に育ち合いながら、生きる力がつくことを願って、一人一人に寄り添っていくことを確認しながら、教員同士も協力しながら毎日の保育を進めていくことができた。 ・子どもも教師もお互いを思いやる日々を過ごすために、言葉が必要なことを確認し、「言葉にする」を念頭に置いて3年、少しずつ語り合えた。 ・途中入園の子ども達が、障がいやグレイゾーンが多く、園全体で進めることが多かった。
2	子ども一人一人に寄り添い、生活や発達に即した援助を考える	B	・少人数保育を利点として、園全体、すべての教師で子どもたちに接し、保育することができた。 ・年長組は、女兒が多く、クラス運営が楽だったが園全体で関わることで日々、落ち着いた生活が出来た。そして、クラス活動も意欲的な取り組みなど、発達に応じた学級経営がなされた。 ・発達の遅れのある子や障がいがある子に対する援助を園全体（子どもも教師も保護者も）で関わることでできた。
3	家庭と連携して、共に子育てをする 小学校生活へのなめらかな継続を図る	B	・子どもの健全な生活を続けるため、登園の少しの時間でも母親と言葉を交わして、園長、主任が園生活、家庭生活、家族問題の相談の時間を確保することができた。 ・二つの小学校の間にあり、それぞれ他の園との関係があるので連携が取れず、これからの問題である市私幼主催の＜幼少の架け橋＞の研修に3名の教師が出席し、その後、地域の小学校の先生たちと話し合いができた。今後も学校の先生たちと共に学び、話し合いの時間が持てることを願っている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	小さい幼稚園であることを充分活かし、その時その時の必要に応じながらクラスより園全体で動いた。その上、クラスでは発達にあった活動も行っていた。感染症予防のための方策も細やかに動くことが出来た。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	行事の見直し	行事の見直しを行い、障碍児が多く、思うように園外での保育が難しかった。しかし、その中でも、粘土遊び、おもちゃ美術館、教会礼拝と草深公園駿府城公園と、行動範囲を広げることができた。園外に出ることで、周りを見たり、ルールを確認したり、園内だけではできないこともできた。
2	記録の取り方	それぞれの教師に任されている記録だが、指導計画、一人一人の子どもの活動の記録など、教師が持ち寄り、学び合う事が必要だ。研修の報告など、書くことを苦に思わず、日々過ごすことができた。
3	学校安全マニュアル	いろいろな事件、事故を踏まえ、マニュアルの見直しをすることが出来た。しかし、書類として残しておくだけでなく、皆で学び合い、訓練などを通して、教師一人一人が理解していくことがこれからの課題である。

学校関係者評価委員会の評価

今年度は運動会、クリスマス、作品展の準備の参観など、いろいろ見学ができました。障害の子ども（4歳児）の多さに驚いたが、先生達そして子供たちも園全体で支えているようにみえた。連携がうまく稼働しているとみることができる。

静岡ホームの子ども達、そして障碍児と教師の負担が心配です。でも、明るく接している姿をいつも見ることができ、温かい気持ちになりました。今後とも、かえでらしい幼稚園でがんばってほしい。